

【児童養護施設でのドッグセラピーと調査】

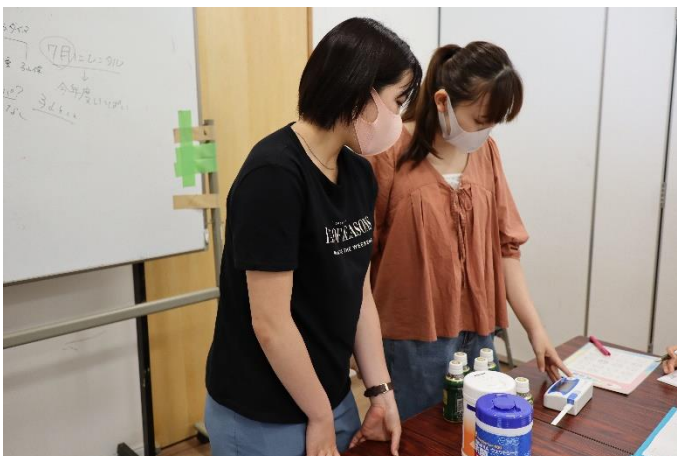


6月 児童養護施設にやってきました。
ドッグセラピーの実施前と実施後での心身の変化を調査します。

調査の流れ

- ①アンケートへの回答
- ②表情撮影 (15秒)
- ③表情シートから今の感情を選ぶ
- ④唾液アミラーゼの採取と測定
- ⑤脈拍・血圧測定
- ⑥アンケートへの回答

初めにアンケートに答えてもらい、表情の撮影の後、感情シートから今の自分の感情に近いものを選んでもらいます。



唾液の採取を行い、唾液アミラーゼの値を測定しています。
この後、脈拍・血圧も測定します。

★調査・活動を実施した感想

1回目：中学生・高校生の回

- ・子どもの唾液アミラーゼの数値がドッグセラピーを実施した後の測定で上がっており、変化がみられていた。
- ・中高生の表情がセラピー前から後で明るくなっていたと感じた。
- ・施設の子たち（中学生・高校生）となかなかうまく話せなかったが、さりげなく側にいるようにして様子を見ていた。
- ・犬がほんとうに大人しくて、いい子に座っていたので、きちんとセラピードッグとしての訓練を受けていると思った。
- ・セラピードッグとの触れ合いを通して、中・高生同士の関係もセラピー前後で仲が深まっていたように感じられた。
- ・スムーズに調査を進めることができたと思う。

2回目：小学生の回

- ・小学生組の2グループのどちらも賑やかな様子だったが、調査からドックセラピーまでの流れはスムーズに行うことが出来ていた。
 - ・セラピードッグと触れ合う前後の調査では、施設の小学生の子どもたちの協力を得ながら行うことができ、自然なコミュニケーションを取ることもできたと思う。
 - ・子どもたちは、犬と元気に走り回ったり、おもちゃを使って一緒に遊んでいたりしている様子だった。また、犬が少し苦手と話す施設の子が、何回か参加をしているうちに、セラピードッグに触れている様子もあり成長がみられていた。
- セラピードッグとセラピストの方が座って一緒にセラピーを行っている場面を実際に見ることができ、子どもたちの笑っている顔や参加する前のワクワクした顔が、とても印象に残った。

私たちもセラピードッグたちに
癒されました～❤️

